

～堅磐河道掘削における周辺環境への配慮について～

(事業の必要性)

常陸河川国道事務所では、平成 22 年度より堅磐地区において河道掘削事業を実施しています。堅磐地区は久慈川における最大の流下能力不足箇所となっており、久慈川流域の住民の生命・財産を守るために最優先に実施しなければならない事業であると考えています。

(環境への配慮)

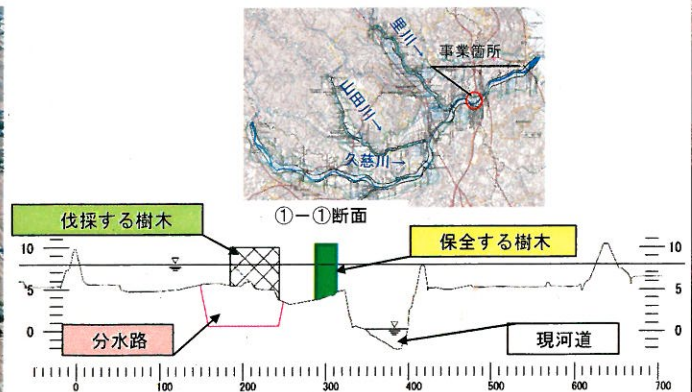
一方で、堅磐地区は関東最大級のサギコロニーや、久慈川における重要なアユ産卵床の一つとなっています。特にサギコロニーで確認できているチュウサギは、環境省 RDB では、準絶滅危惧 (NT) とされています。これらの重要性に鑑み、日本野鳥の会茨城県や日本鳥類保護連盟、また、久慈川漁業協同組合や茨城県内水面水産試験場などの専門家からご意見を頂くとともに、常陸河川国道事務所としてもサギの分布調査や、久慈川漁業協同組合や茨城県内水面水産試験場と共同でアユ産卵床調査及び流下仔魚調査を実施するなど、十分に周辺環境に配慮しながら事業を実施しております。

(分水路方式での実施)

今回の堅磐河道掘削を着手するにあたっては、事業着手前からこれらの専門家の方々からご意見を頂いた結果、サギコロニーやアユの産卵場を保全しながら事業を実施することが可能である方法として分水路方式として実施することとしました。その上で、事業期間中はサギのモニタリングを実施し、専門家の方のご意見を伺いながら事業を進めていくこととしています。

(一刻も早い完成に向けて)

一方で、工事を実施していくにあたり、サギの営巣等に配慮して工事の実施時期や場所を制限しながら実施していくため、完成まで年月を要することとなります。そのため、常陸河川国道事務所としては、専門家の方々のご意見を参考に環境への影響を考慮しつつも、できる限りの進捗を図れるよう努力し、一刻も早い事業の完成を目指しています。



掘削箇所の位置図